



中国・アジアで Alibaba Cloud が選ばれている理由 アジア圏での展開を考える企業が今知っておくべきこと

巨大市場を抱える IT 先進国に上り詰めた中国

近年、中国の ICT 事情について実に多くの記事が紹介されている。とりわけ頻繁に目にするものは、「ofo」などのシェアバイク、「Alipay」などのスマートフォンアプリ決済、そして深圳でのモノづくりのスピード感と過剰とも言える投資の盛り上がりなどである。

また、このような新しい動きをけん引している中国 IT 企業に対しても多くの注目が集まっている。企業の時価総額ランキングで米国 IT 企業と競いあっているのが中国 IT 企業であることは周知の事実。中国発の IT サービスを日系企業が後追いでリリースしたり、Made in China の IT プロダクトをブランド品として受け入れることが増えてきているのである。中国の巨大市場は日本も含めた多くの外国企業にとって魅力的に映るが、インターネット環境の特異性ゆえに、国外企業が Web サービスを提供する難易度はきわめて高い。



グローバルで利用されているサービスは制限の対象に

中国から海外、海外から中国へのインターネット通信が制限されているため Google の各種サービスや Facebook、Twitter が利用できないことは有名だ。さらに法制度面では中国のインターネットサービス事業者ライセンスが外資系企業に認められていないため国外からの新規参入が難しくなっており、このような環境の中で中国内資の IT 企業が自然と大きくなっていったのである。これはクラウドインフラサービスにおいても同じことが言える。

Amazon が提供する Amazon Web Service(以下、AWS) や、Microsoft が提供する Microsoft Azure、Office 365 など世界中で多く利用されているクラウドサービスであっても中国での販売者は中国内資の企業だ。Amazon や Microsoft のような外資系企業でも直接クラウドサービスの提供を行っておらず、あくまで内資企業が提供するという建付けが中国においては必要になる。

Alibaba Cloud が中国向けビジネスのインフラに選ばれる理由

中国で IT サービスを展開するときに必要なこと

中国市場で Web コンテンツを使って情報発信をする場合、単純に日本語を中国語（簡体字）に置き換えれば良いわけではない。例えば、中国国外の各種 Web サービスが使えないことで、企業の所在地を表示するには一般的に用いられている Google Map が利用できないので「Baidu Map（百度地图）」などに代替する必要がある。Facebook のシェアボタンも中国本土から閲覧できない原因となることが多い為、「WeChat（微信）」のシェアボタンに置き換える必要がある。さらにサイト内で動画を再生させるためには YouTube ではなく「QQ」や「Youku」にしなければならない。

このように言語以外の領域においても中国内資企業が運営するサービスに置き換える必要がある。こうしたローカライズ問題に加えて考慮する必要があるのは、Web サイトのデータをどこに置くか、という問題である。中国のインターネット普及率はすでに 50% を超え実に 7 億人以上がインターネットを利用している。しかし国外向けの回線は細く、インターネット人口一人あたりの国際接続帯域はわずか 9.5Kbps しかない。

この回線の細さに加えて物理的な距離も通信速度に影響を及ぼすため、海外のサーバにおかれた Web サイトの情報は、よほどの好条件が揃わないと中国国内からストレスなく閲覧できないということになる。

回線速度の遅さ故に、コンテンツのデータ容量に対しても配慮をしたうえで、画像・動画はもちろんのこと、サイトのスタイル情報などを検討する必要があるのだ。

■参考資料：株式会社クララオンライン「第 41 回中国インターネット発展状況統計（抜粋・参考訳）」

https://www.clara.jp/report_free/china_internet_statistics41/

■ Alibaba Cloud 関連情報

Alibaba Cloud サービス詳細

<https://www.softbank.jp/biz/cloud/alibabacloud/>

Alibaba Cloud に関するお問い合わせ

<https://pardot.tm.softbank.jp/l/352851/2018-06-21/3yhs26>

中国にサーバを置くことの難しさと、解決策としてのクラウドサービス

これらを踏まえると、中国国内に置かれているサーバを利用することも考えられるが、これもまたハードルが高い。中国で開設するすべての Web サイトは中国政府に対して事前に申請（ICP 登録）をしなければならない。

また、2018 年 5 月に施行された EU の GDPR（EU 一般データ保護規則）への対応に追われている企業も多い中、中国でも 2017 年 6 月に施行されたサイバーセキュリティ法において、国内の運営で収集・生成した公民の個人情報および重要な業務データは、中国国内に保存することが定められている。

このような中国の ICT 環境や法規制の問題を鑑みると、中国内資企業が運営するサービスを選びながら、中国への接続性も良いクラウドサービスを利用する、という選択肢が見えてくる。

最近では、中国に限らず ASEAN 地域も同時に展開する日本企業が多いため、それらの地域に対しても同時に課題解決できることが、より望ましい。

Alibaba Cloud の押さえておきたい特長

現在のクラウドサービスにおいてグローバルのリーダーは AWS となっているが、中国においては Alibaba Cloud が大きなシェアを占めている。なぜ中国では Alibaba Cloud が選ばれているのか。ここでは中国における Alibaba Cloud と AWS の違いを押さえない。

Alibaba Cloud は中国や東南アジアのリージョン数が多い

クラウドサービスにおける「リージョン」とは、どの地域のデータセンターでサービスを提供しているかということを表している。ユーザ体験としては自分から最も近いリージョンを利用することが最適であり、各クラウドベンダーはリージョンを増やしてユーザが快適に利用できるように努めている。

Alibaba Cloud と AWS の中国におけるリージョン数を比べると、Alibaba Cloud が 7 リージョン、AWS が 2 リージョンとその差は大きい。(※)

また、中国に限らずグローバルでは依然として AWS のリージョン数が多いが、ジャカルタなど東南アジアの地域によっては先に Alibaba Cloud がリージョンをオープンしている。



Alibaba Cloud は中国で利用できる CDN を多数持つ

多くの人に情報を届けることが目的の Web サイトの場合、特定地域のリージョンを利用するだけでは不十分である。一般的に Web サイトのアクセス高速化のためには CDN (Content Delivery Network) を利用してカバレッジを広げる。オリジナルとなる Web サイトがどこにあっても CDN のエッジがユーザに最も近いところから配信してくれることで、ストレスなく Web サイトを閲覧できるからだ。

しかし、中国となると Alibaba Cloud の CDN は提供されているが、AWS の CDN(Amazon CloudFront) は提供されていない。

そのため、中国にいるユーザが CDN を利用している Web サイト閲覧した場合、Alibaba Cloud なら中国に約 500 台備えている CDN サーバのうちユーザに最寄りのエッジから配信されるが、AWS では香港エッジから配信されるので閲覧にストレスがかかることが予想される。(※)

Alibaba Cloud が提供する Express Connect が通信遅延を解決

システム担当者が中国のリージョンを利用している場合、東京のリージョンとシステム連携させたいというケースがある。例えば Web サーバは中国リージョン、データベースサーバは東京リージョンというケースである。この場合、最大の懸念点は日中間の通信遅延である。リージョン間通信を安定、高速化させることはグローバルにクラウド利用を進めたい企業にとっては重要である。そして大抵の場合は通信回線を別の企業に依頼、クラウドのネットワークとインテグレーションして結果的に費用が高くなる。そんな時は中国と日本のリージョン間通信をワンストップでつなげられる Alibaba Cloud の Express Connect で解決できる。(※) これは中国での展開を主としている Alibaba Cloud ならではの強みと言える。

(※) 各種情報は 2018 年 6 月現在の内容です。



まとめ

中国本土を含むアジアに向けて情報を届け、そこでのビジネスを成功させる上で、ローカライズ対応は不可欠だ。そして、ローカライズ対応が必要になる分野は、法規制への対応からはじまり、コンテンツからインフラまで広汎に及ぶ。このうち、とりわけハードルの高い中国へのインフラのローカライズに対応する上で、Alibaba Cloud は有力な選択肢になるであろう。Alibaba Cloud を通して多くの企業が中国市場に参入し、IT 業界がさらに活性化していくことを期待したい。

■あわせて読みたいパブリッククラウド記事ソフトバンクの RPA ソリューション「SynchRoid」

1) おさえておきたい!「パブリッククラウド」～ Alibaba Cloud・GCP・Azure・IBM Cloud・AWS ～
https://tm.softbank.jp/future_stride/topics/20180509/

2) パブリッククラウドは部品に過ぎない。Alibaba Cloud が提供する本当の価値 ～中国「ニューリテール」の最新ノウハウを日本に～
https://tm.softbank.jp/future_stride/topics/20180718/

3) RPA ×パブリッククラウドで働き方改革を日本全国に ～ RPA ソリューション「SynchRoid」と「Alibaba Cloud」のコラボレーション～
https://tm.softbank.jp/future_stride/topics/20180731/

■ Alibaba Cloud 関連情報

Alibaba Cloud サービス詳細
<https://www.softbank.jp/biz/cloud/alibabacloud/>

Alibaba Cloud に関するお問い合わせ
<https://pardot.tm.softbank.jp/l/352851/2018-06-21/3yhs26>

■執筆

株式会社クララオンライン ビジネスストラテジー部 吉村 真輝・云 青
株式会社アクアリング・グローバルストラテジー 長崎 亮・田口 大輔

株式会社クララオンライン
<http://www.clara.co.jp/>

株式会社アクアリング・グローバルストラテジー
<https://www.aquaring.co.jp/ja-JP/gs>

ソフトバンクのビジネス WEB マガジン Future Stride

https://tm.softbank.jp/future_stride/

「Future Stride」(フューチャーストライド)は、ソフトバンクが運営するビジネスの未来を発信する Web マガジンです。

ロボットや AI、IoT をはじめとした、あらゆる情報革命の動向を伝えるほか、革新的なソリューションを生み出すことに挑戦している人や、流行をもたらす可能性のあるプロダクト・サービスを世に広げる人、最先端の技術を用いて未来を今に引き寄せる人など、さまざまな“モノと人”にフォーカスを当て近い将来やって来るであろう新しいビジネスの姿を映し出していきます。

SoftBank for Biz 公式アカウント



ソフトバンクの最新情報や
WEB マガジンの最新記事などを発信しています。



ビジネスメールマガジンの
登録はこちら